深みとは？

深みとは、「理解のレベル」と言う意味ではないでしょうか？

「考えが浅い」「深く理解しろ」と言う表現が代表するように、思考や学問において「深み」は大事にされているようです。

では、どうして深みは大切なのか？

深みとは、理解のレベル、そして理解とは「真実」と言い換えれば、深みが大切なのは真実に近付く事であるからと言えるのではないでしょうか？

考えが浅いのは、真実と言う正解に遠いと言う事。

「物事を深く理解しろ」と言うのは、一種の冗語であり、理解する事が本当に大事だからこそ、同じ理解を意味する「深く」と言う言葉が理解と言う言葉を形容するように使われているのではないでしょうか？

そして、「深みとは、理解である」ではなくて「理解のレベル」と表現したのは、「理解しているか、していないか？」と言う白黒ではなくて、理解にも理解のレベルがあって、十分な理解や不十分な理解と言うのがあって、時として完全な理解を追求してしまうと、完璧主義者のような状態になってしまい、考えすぎて行動が疎かになるであろうから、「理解のレベル」と表現しました。

学問における深みとは、やはり暗記する事ではなくて、理解する事。理解すると言う事は「なぜこうなるのか？」と言う事を、小学生が理解出来るように説明をする事が出来ている状態。

思考における深みとは、真実に近付く事。ビジネスで判断決断をしないといけない状況だとして、どの選択肢が一番、良い選択肢である確率が高いのか？と言う事を、選択肢を比較したり、選択肢が良い理由だけではなくて、悪い理由を示唆したりする事で真実に近付ける。他にも、自分自身の認知バイアスや偏見をしっかりと考慮したり、決断判断をして出るであろう影響を考えること、頭の中に色んな事例やレパートリーを貯える事など、真実に近付く方法はたくさんあるでしょう。

深みとは、海に潜ったダイバーがより深い水深まで泳ぎ進むような、そんな苦しい作業である事が多いでしょうが、深く潜って、潜り続けた者だけが、